

自己評価報告書(最終報告)

報告者

現代教育課題総合コース/
田村 和之

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

中央教育審議会の考え方を実現するため:

- ①、授業は学生のものごとに対する視野を広めさせることを第一目標とした内容とする。
- ②、一般的な知識を講義した後は、講義よりも学生同士の討論や意見交換、ディベートを中心とした授業を展開するように努力する。
- ③、成績を期末試験(筆記試験)の結果のみでつけるのではなく、普段の授業への参加態度、発言回数、意思表示を中心に総合的に評価する。

2. 点検・評価

「人間と環境Ⅰ(基礎研究)」の授業では、徳島の特産品や食品などを授業でどのような教科でどのように教材として使うかを順番に学生に発表させた。その後、全員で話し合うことで発表者のみならず、受講者もその特産品について考えを改めることが可能となり、全員の教材とその使用方法に関する視点を広げることに成功した。本年度は受講者数が少なかったこともあり、発表後の話し合いも昨年度より活発になり、全員が参加する授業とすることができた。その結果、全員の成績も昨年度と比べたら高めの成績となったが、授業内容を振り返ると適切だったと考える。

「人間と環境Ⅲ(応用研究B)」では前期に「人間と環境Ⅱ」作った授業案をさらに改善したり、実際にザンビアで作られた指導案を改善したり、大学内の植物や樹木を実際に使って模擬授業を行ったり、より実践的な内容で授業を行った。また毎回学生同士でその日に行われた模擬授業などについて話し合い、全員がより授業方法や授業内容についての視野を広げることに成功した。成績も授業の参加態度や発言内容にそって評価を行い、目標に書かれてある通りに総合的に評価を行った。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

昨年度の授業での反省点を改善し、またより学生が発言しやすい授業を行うように努力する。
また、ゼミ生やコース所属の学生だけではなく、他コースの学生も気軽に相談できるように学生生活を支援して行く。

2. 点検・評価

後期の授業では教壇に立って話をするのではなく、自分も学生と一緒に机に座って授業を行った。その結果、授業でも話しやすい雰囲気とすることに成功し、学生の意見も昨年度と比べてより活発になったと思われる。

学生生活ではゼミ所属の学生のみならず、他の学生にもこちらから話しかけ、学生の相談にのったりもした。
また、自分の授業を受講した他コースの学生やその他学内でのイベントや業務で知り合った学生とも話したり、彼ら／彼女らの相談に対応してあげることができた。
特にゼミ生は本年度、私事で大変困難な状況にも直面したが、きちんと話を聞いて相談にのり、その後のアフターケアも行った結果、無事にその局面を乗り越える事に成功した。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

昨年度は環境教育の分野でも教員養成大学における取り組みの事例が少ないということが分かったので、本年度は本校の特色を生かし、教員養成を中心として、また地域との関わりを軸とした環境教育について研究を行って行く。

2. 点検・評価

中間報告で述べた2つの学会発表の他にも本年度は2013年中にさらに3つの学会発表、2014年に1つの発表を行った。
また、論文も2014年3月上旬時点で国際雑誌に2本(査読有)、国内で論文を1本(査読有)と紀要を1本(査読無)の執筆に参加した。

7月中旬、物理の国際学会で発泡スチロールを使用した泡の構造を調べる簡易実験の実践報告の発表を行った。
8月には日本グローバル教育学会(日本学校教育学会と同時開催)にて7月に行った報告を更に詳しく分析し、地域の特徴をどうやって環境教育の授業に取込むかについての発表を行った。
10月には日本教育大学研究集会にて総合コースで行っている修士論文構想発表会の形式の改善(本年度で3年目)の効果や未だに残っている問題点を研究結果として発表した。
2014年1月、アメリカのワシントンDCで行われた米国天文学会で自分の博士論文の継続研究について共同研究者として発表した。

また、2014年2月末にはフィリピンで新しい理科教育・環境教育・国際教育の研究調査の基盤となる学校訪問を行った。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

来年度担当することになる各種委員会やコース内の責務をしっかりと遂行する。
また、それ以外にも大学運営に関して関わることがあれば、積極的に参加したい。

2. 点検・評価

コース内の通常業務、そして大学院入試委員会としての業務を滞りなく遂行している。
また、大学内で行われた教員免許証10年研修(異文化研修会)にも講師として参加した。

他にもコースの構想発表会や修士論文口頭試問などのスケジュール調整や修士論文発表会の時学生との連絡役を行い、全て問題無く任務を完了する事ができた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

附属学校や鳴門市・徳島市から要請があれば積極的に意見交換や行事等に参加したい。
また、その他にも地域交流や国際交流関係などのイベント等に積極的に参加して行きたい。

2. 点検・評価

地域との連携として:

「次世代科学者養成講座」において物理学と天文学の講座を行い、子供達や保護者からとても評判が良かった。
また、「NPO法人 科学技術ネットワーク徳島」では理事の一員として平成25年度と平成26年度の事業内容等の相談・決定を行った。

そして、前期同様、後期も時間が合えば「徳島社会文化研究会」の集会等に参加・発表して、徳島で活躍している様々な人達と交流を行った。

2014年1月には課外授業として四国電力主催の発電所見学に学生を連れて参加した。

附属学校関係では、2月に行われた附属小学校研究発表会(理科分科会)に参加した。

その他、国際交流の連携として、本年度は鳴門教育大学で行われているJICAの研修に一部見学・参加した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)